

そらうがく

(No. 78)

R6. 12. 13 発行

現職研修委員会
総合的な学習部編集



夏季研修報告

〈基礎編〉

基礎編には、二十九名の先生方が参加されました。

研修①では、生平小学校・杉本智恵先生から、「身近な環境に主体的に関わり、よりよい環境について考え、行動できる子供の育成」というテーマで実践発表をしていただきました。野鳥を題材とした「ふるさと学習」を基に、新たな探究に向けて子供たちの思いを高め、活動に取り組むための手だてについて、教授いただきました。研修②では、岡崎市役所総合政策部企画課の皆様から「SDGs」ってなんだろう？（岡崎市の「SDGs」というテーマで）講演いただきました。岡崎市の取組事例の紹介や学校生活の中で実践していくための視点を明示していただきました。研修③では、グループワークショップにて、一学期実践の振り返りと、年間計画の見直しについて、意見交換が行われました。

〈専門編〉

研修①では、中京大学・久野弘幸教授から「総合的な学習の出発点と分岐点、そしてこれから」というテーマで講演いただきました。総合的な学習の時間が、各学校において創意工夫を生かした特色ある教育活動となるために、また、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために、教科等を超えた横断的・総合的な学習をより円滑に実施する時間を確保する観点から導入されたことを学びました。研修②では、酒井智之指導員から、「小中学校におけるSTEAM教育」について研修を受けました。STEAM教育は、急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成を目指して考えられたものであることを学びました。

自立した学習者へ

総合的な学習部長 竜谷小学校 手島 露子

本年度より、総合的な学習部会における研究主題を「子供の探究がつながる総合的な学習の授業づくり」へと刷新しました。「つながる」とは、探究的な学びの過程を発展的に連続させていくということです。そのためには、カリキュラムの構成、課題設定、活動の見通し等の単元や授業のデザインが鍵を握ります。従って、この主題を踏まえたさまざまな研究大会や研修では、一連の探究過程における教師支援の在り方が、必ず協議の視点となります。

ふと、以前訪れたぶどう園で伺った話を思い出しました。ぶどう栽培においては、土壌づくりや水の管理をはじめ、多種多様な手入れとそれを施す高い技術が必要です。その一つである「捻枝（ねんし）」という作業技術の内容が心に残っています。聞きなれない「捻枝」とは、その年に新しく出た枝を文字通り手で捻じり、枝の伸びを方向づける技術のことです。これにより、枝が折れにくくなることともに、感光性が上がり品質のよいぶどうを作ることにつながるのだそうです。時期の見極めが難しく、早すぎるとかえって成長の妨げとなり、適期を逃すと枝が

固くなり、捻じった際に折れてしまうとのことでした。さらに高い技術が必要で、熟練するまでには、誤って主要な枝を折ってしまうことも多いと伺いました。いずれにせよ、収穫期はかなり先のことです。木の成長状況を丁寧に観察しながら、まだ見ぬ果実のなり具合を想像し、手を入れていくのだそうです。しかし、どれだけ手を入れたとしても、木そのものに自立して成長する力が備わらなければ、当然ながら願う姿には育たないとのことでした。教育活動と相通じる部分がいくつもありました。

今年度、多くの実践に出会い、またさまざまな実践記録を読む機会を得ました。子供の思いや願いを基に実践課題を設定するとともに、対象との出会わせ方や、体験活動の導入の仕方など、子供の意識の流れをよく捉えた実践が数多くありました。そうした実践に共通しているのは、教師が子供をよく見つめ、対話した上で、適期を逃がさずに成長を促すための支援をしているということです。手をかけすぎたり、反対に子供任せにしたりしているだけでは、探究的な学びを支え、子供を自立した学習者に育てていくことはできないという、指導者の信念がひしひしと伝わってきます。

「子供の追究意識が別のところに向かっています。授業を再構成したいです」と報告に来た職員。それでこそ総合的な学習。思わず笑みがこぼれました。

県教研の報告

「身近な環境に主体的に関わり、よりよい環境について考え、行動できる子供の育成」を主題とした実践について発表しました。地域の野鳥調査から環境問題を自分事として捉え、環境保全の在り方を深く考え、市役所への提言という形で社会に働きかける子供の姿を提案しました。助言者の先生から、「子供の現状をしっかりと捉え、子供の姿から課題を設定するとよい」と、本実践をさらによい方向に導くご助言をいただきました。

「子供の主体性を失わずに持続可能な実践にするために必要なこと」についての論議から、学校としての系統性をもたせつつ、子供の思考で学習を展開したい、子供たちが学習したことをもとに自分の未来や将来を展望できるようにしたいと思えました。また、子供たち自身が探究の質を評価でき、自分の生き方を問うことができるような振り返りを行うこと、教師がその学びを価値付けすることが大切だとご助言をいただきました。

生平小 杉本 智恵

会の最後の総括討論の場では、「子供の主体性を失わずに、持続可能な実践にするために必要なこと」という共通のテーマが与えられ、それについて討論をしました。①毎年担当教師が変わるため、教師が変わってもできるように三年間の単元構想を作るなど系統性をもたせること。②協力をしてくれた企業のリストや手段を残しておくこと。③全校の場で発表するなどして、下級生に引き継いでいくこと。④教師が意図する思いや願いをどう生徒にもたせるかを常に考えておくこと。⑤地域に次年度も受け入れてほしいと伝えておくこと。⑥地域・他学年(次の学年でも探究できるようにする)・教科等とのつながり、関連をもたせること。⑦大まかなテーマが学年ごとに決められていること(生徒の興味で展開されるのがよい)など、さまざまな意見が挙がりました。なるほどと思うことばかりでしたが、持続可能な実践にするためには、学校全体での取組が必要であり、改めて総合的な学習の力キミラムの見直しが必要であると感じました。

福岡中 本間 佐知子

学び舎の 総合耳寄り情報

本校の高学年は、「調べよう、宮崎小卒業生の平泉成さん」をテーマに実践を展開しています。俳優の平泉成さんについて、学区の方に取材をし、一緒に小学校に通っていたという方を見つけて話を聞くことができました。今年八十歳にして映画の初主演をされたこと、苦勞を重ねてこれた人生など、平泉さんのこれまでの努力などを学んでいます。在校生にも平泉さんの努力や苦勞、現在の活躍を伝え、まとめを進めていきたいと思えます。

宮崎小学校

山口 文栄



三年生は、「めざせ！岩津のかんこう大使」という単元で学習を進め、岩津学区のよさについて考えました。上学年に学区のよさについてアンケート調査をする「岩津音頭」という聞き慣れない言葉が出てきたため、岩津音頭保存会の方々をお招きし、歌詞の意味や踊りを学ぶことができました。

岩津小学校

大桑 愛



常磐中学校の一年生は、「私たちの常磐」と題して、よりよい学区の在り方について追究をしています。市の都市計画課の方に話を聞き、街づくりについて学んだ後、各学級で常磐のこれからの「衣食住」「学校」「催し」について考えています。

常磐中学校

原田 康司



一年生は、防災について学習しています。先日、愛知県防災士の会の防災アドバイザーの方をお招きして、災害時を生き抜くために必要な準備について学びました。講演の中で紹介してくださった防災バッグに焦点を当て、自分に必要な防災バッグの準備を進めています。

六ツ美中学校

平林 勇太



本校の三年生は、「ときなんの生き物と共に」をテーマに学習をしています。講師として、岡崎野鳥の会の方に来ていただき、「バードウオッチング」を行いました。双眼鏡を片手にカルガモやケリ、セグロセキレイ、ダイサギなどたくさんさんの鳥たちを見ることができました。学校の周りにはたくさん生き物がいて、わたしたちはそれらの生き物と共に生きていくと感ずることができました。



常磐南小学校

天野 康之介